

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 商業販売統計(2008年5月)
～物価上昇の影響を除けば悪化～

発表日2008年6月27日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
T E L : 03-5221-4528

(単位: %)

		商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店		百貨店	スーパー	コンビニ販売額	
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	前年比	既存店 前年比
07	1月	2.2	0.7	3.3	1.1	▲ 0.9	0.6	0.6	▲ 0.5	0.0	▲ 0.9	1.7	▲ 0.7
	2月	3.0	1.9	3.9	1.6	▲ 0.2	0.7	1.5	0.5	1.5	▲ 0.1	1.3	▲ 1.1
	3月	1.3	▲ 3.0	1.9	▲ 4.4	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.2	▲ 1.1	▲ 1.5	▲ 0.8	0.9	▲ 1.4
	4月	4.3	3.4	5.8	5.4	▲ 0.7	0.3	▲ 0.7	▲ 1.8	▲ 1.4	▲ 2.0	1.6	▲ 0.6
	5月	5.9	1.8	7.7	2.2	0.1	0.3	0.3	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.9	1.7	▲ 0.6
	6月	4.1	▲ 0.7	5.4	▲ 0.8	▲ 0.4	▲ 0.3	1.9	0.9	5.1	▲ 1.9	▲ 2.0	▲ 4.2
	7月	4.0	▲ 0.9	5.9	▲ 0.6	▲ 2.3	▲ 1.9	▲ 2.5	▲ 3.8	▲ 4.4	▲ 3.4	2.1	▲ 0.2
	8月	3.0	0.9	3.8	0.3	0.5	3.0	1.7	▲ 0.1	1.1	▲ 0.8	2.1	▲ 0.2
	9月	1.1	▲ 1.3	1.2	▲ 1.9	0.5	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 2.0	▲ 2.7	▲ 1.5	2.1	0.0
	10月	4.4	2.0	5.4	2.7	0.8	0.4	▲ 0.1	▲ 1.7	▲ 1.6	▲ 1.8	0.9	▲ 1.2
	11月	4.1	▲ 0.3	4.8	▲ 0.4	1.6	0.1	1.9	0.4	0.8	0.1	1.7	▲ 0.6
	12月	2.2	▲ 0.5	2.8	▲ 0.3	0.2	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 1.5	▲ 2.2	▲ 1.0	0.6	▲ 1.3
08	1月	3.7	0.6	4.5	0.8	1.3	0.8	▲ 0.8	▲ 2.0	▲ 2.1	▲ 2.0	0.1	▲ 1.6
	2月	5.6	▲ 0.2	6.3	▲ 0.4	3.2	▲ 0.9	2.7	1.2	1.0	1.4	3.4	▲ 0.5
	3月	1.5	▲ 2.4	1.7	▲ 4.0	1.0	0.4	1.8	0.2	▲ 1.2	1.3	1.2	▲ 0.6
	4月	4.3	4.5	5.6	7.2	0.1	▲ 0.1	▲ 0.6	▲ 2.2	▲ 3.4	▲ 1.5	1.4	▲ 0.2
	5月	3.8	2.9	4.8	3.6	0.2	▲ 0.2	▲ 0.6	▲ 2.1	▲ 2.5	▲ 1.8	5.0	3.5

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

○ 実質ベースでは悪化

5月の小売業販売額は前年比+0.2%と4月の+0.1%からほぼ変わらず、事前コンセンサス(同▲0.1%、レンジ: ▲0.5～+0.8%)並みの結果となった。季節調整値でみても前月比▲0.2%、4-5月平均の1-3月期比も▲0.2%と、横ばい圏内の推移が続いている。

もともと、これはあくまで名目の話である。物価上昇の影響を考慮した実質ベースでみると前年比▲2.2%と大幅に減少しており、4月の同▲1.1%と比べてもマイナス幅は拡大している。4-5月平均の1-3月期比(季調値)も▲1.0%となり、足元で財消費が弱含んでいることが確認できる。

○ 5月の個人消費も低調

小売業販売額(名目)を業種別にみると、前年比プラスとなったのは飲食料品小売業(前年比+3.1%)、自動車小売業(同+0.2%)、燃料小売業(同+1.1%)の3業種。燃料小売業と飲食料品小売業については価格上昇によって押し上げられている面が大きい。特に燃料小売業は、5月は暫定税率復活によって、4月と比べて価格面でかなりの押し上げ要因があったにも関わらず、むしろ伸びが鈍化している。4月末に生じたガソリンの駆け込み需要の反動から、実質ベースでみると大幅に悪化していることには注意が必要だ。また、自動車小売業については、前年比プラスではあるが、4月(同+4.4%)から伸びが大きく鈍化している。4月に自動車取得税が一時的に低下し、駆け込み需要が生じたことの反動が出ているものと思われる。

そのほか、各種商品小売業(同▲1.8%)、織物・衣服・身の回り品小売業(同▲2.9%)は4月に続き低迷している。生活必需品価格上昇の影響により生活防衛意識が強まっていることに加え、5月中旬以降の気温低下や週末毎の雨天などの天候不順もマイナス要因となった模様である。

このように、前年比プラスだった燃料小売業と飲食料品小売業はともに価格上昇によって押し上げられている面が大きい。この要因を除けば5月の消費はかなり弱めとの評価となるだろう。

○ 4-6月期の個人消費はマイナスに

5月の小売業販売は弱めの結果となった。本日公表された家計調査もかなりの悪化となっており、4月に続いて5月も個人消費は低調に推移したことが確認された。物価上昇に伴う実質所得の押し下げや消費者マインド急低下といった要因が個人消費を抑制していると思われる。本日の消費関連統計の結果を踏まえると、4-6月期のGDPベース個人消費が前期比マイナスに転じる可能性がかなり高いといえるだろう（小売業販売はQE個人消費の推計にはほとんど用いられないが）。

